

氏名 江 原 一 彦

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 939 号

学位授与の日付 昭和53年3月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学位論文題目 **実験癌ラット並びに悪性腫瘍患者の血清 Seromuroid に関する研究**
Walker-256-carcinosarcoma 移植ラット及び健康ラットにおよぼす放射線照射の影響 (第1編)。
Walker-256-carcinosarcoma 移植ラットへの放射線照射による Seromuroid 値及び放射線照射ラットの Seromuroid 値の変動について
悪性腫瘍患者における血清 Seromuroid の臨床的観察—原発性肺癌及び子宮頸癌患者の血清 Seromuroid 値及び治療との関係について (第2編)

論文審査委員 教授 妹尾左知丸 教授 小川勝士 教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

血清糖蛋白が実験移植腫瘍動物及び悪性腫瘍患者において増加することが多数知られているが癌患者に対して放射線療法を主とした治療の影響と血清 Seromuroid 値の変動に関する評価は定まっていない。基礎実験として Walker 癌肉腫移植ラットの X線照射並びに臨床的研究として原発性肺癌及び子宮頸癌患者について放射線療法を主とした療法における血清 Seromuroid 値の経時的推移を研究し、Seromuroid 値と治療効果との相関性、また遠隔転移との関連性並びに再発に伴う Seromuroid 値の変化などについて検討し、担癌ラットでは Seromuroid は遠隔転移発生の指標になりうると思われ、遠隔転移発生後 X線照射を開始しても原発腫瘍消失はみられないことを明らかにした。また Seromuroid は癌患者では臨床診断の一指標となりうる有用性は乏しかったが、肺癌での治療効果や再発、再増悪及び子宮頸癌での腫瘍縮小、消失に反映し、遠隔転移の存在で Seromuroid はさらに高値を示す傾向がみられることを明らかにした。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は放射線照射が担癌体の血清糖蛋白セロムコイドに及ぼす影響について実験的並に臨床

的に研究したものであり、従来十分研究されていなかった癌患者の放射線療法に際して起るセロムコイドの変化について、これが癌の発育と密接に関係して推移し、癌の放射線治療に関する予後の判定の指針として利用し得ることを明らかにしたものである。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。